

平成 18 年度教員個人評価の集計・分析

有明海総合研究プロジェクト

1. 個人評価の実施状況

1)対象教員数, 実施者数, 実施率

表-1 評価実施者数等

対象教員数 (人)	実施者数 (人)	実施率 (%)
5 (助教授 3、講師 2)	5	100

2)教員個人評価の実施概要

表-2 個人評価専門委員会

評価組織	有明海総合研究プロジェクト個人評価専門委員会
構成	荒牧 軍治 (理工学部教授/プロジェクト長) 瀬口 昌洋 (農学部教授/副プロジェクト長) 大串 浩一郎 (理工学部助教授/副プロジェクト長) 加藤 富民雄 (農学部教授/部門長) 中島 幹夫 (医学部教授/部門長)

実施内容と方法：

- ①有明海総合研究プロジェクト個人評価実施基準、同指針に基づき、評価項目とそれらの重みを各自が設定。
- ②実施対象期間を平成 18 年度 1 年間とし、「佐賀大学有明海総合研究プロジェクト平成 18 年度年次報告書」の記載内容に基づき自己点検・評価を行い提出。
- ③評価専門委員会を開催し（出席者：荒牧、瀬口、大串、加藤）、年次報告書及び自己点検評価書を点検・評価し、委員会の評価点、コメントを集約した。

添付資料：

- ①有明海総合研究プロジェクト個人評価実施基準
- ②有明海総合研究プロジェクト個人評価実施指針
- ③個人目標申告書（様式 1）、個人活動実績報告書、自己点検・評価書（様式 3）・評価結果（様式 4）の各フォーマット

2. 評価領域別の自己点検評価

教員より提出された自己点検評価結果の一覧を示す。

表-3 個人評価一覧

	研究			組織運営			総合評価点
	重み	評価	達成度	重み	評価	達成度	
A	0.9	4	80	0.1	3	60	4
B	0.8	5	96	0.2	5	96	4
C	0.8	5	100	0.2	5	100	5
D	0.9	4	85	0.1	5	100	4
E	0.8	5	100	0.2	5	100	4

教員各自が評価した総合評価点ならびに達成率の一覧を表3に示す。個人がどの様に評価したかの分布だけが理解できるように、前に示した各分野の実績との関連を取れないように全教員の評価点をランダムに並べ替えた。

平成17年度と同様、自己点検の基準を「優れている」を基準としたものと、「おおむね良好」を基準としたものに分かれており、評価及び達成率の相互比較には意味がない。ただし、昨年度に比べ自己点検評価及び達成度が上昇しており、研究プロジェクト2年目に入って、研究が順調に進んでいると自己点検している。

1) 評価項目ごとの実績集計と分析

有明海総合研究プロジェクトに所属する教員の平成18年度実績を表-4に取りまとめて表示した。

表-4 研究の実績

	著書	学術和文	学術英文	研究報告等	招待講演	一般講演	特許	受賞	競争的資金獲得	
									件数	金額(千円)
イ	0	9(8)	4(4)	0	0	33	0	0	0	0
ロ	0	8(6)	6(6)	0	0	31	0	0	1	1,000
ハ	0	4(4)	2(2)	0	0	25	0	0	0	0
ニ	0	1(1)	0	0	0	7	0	0	3	15,878
ホ	0	1(1)	0	0	0	4	0	0	2	1,300
(合計)	0	23(20)	12(12)	0	0	100	0	0	6	18,178

(1) 研究の領域

①論文数

表-5 論文数の分布

	年間一人当たり平均	最少	最多
学術論文和文	4.6	1	9
学術論文英文	2.4	0	6
一般講演発表（学術）	20	4	33

- ・ コア 1 の 3 人の研究成果は相当数が学術論文及び講演で公開されており、数的には十分な成果が挙げられている。外部評価委員による評価が非常に高かったことから質的な評価が得られている。コア 2 の 2 名については学術論文の数が各 1 編と少ない。食水系感染症研究部門の教員は、バルニフィカス感染症の予防対策がメインの仕事で、その業績は十分に評価することができる。外部評価委員の評価が高かったことから、学術論文として成果が発表されることが期待できる。微生物相研究部門の教員も論文数は少ないが講演発表等の成果が外部評価委員に高く評価されていることから間もなく学術雑誌に掲載される者と思われる。

②学内外共同研究、国際共同研究

- ・ プロジェクト研究自体が共同型の研究である。

③競争的資金

- ・ 3 名の教員が 100 万円から 1,590 万円の外部資金を獲得している

④センター業務と連携した研究

- ・ 全員が業務と密接に連携した研究を行っている。

⑤教員自己点検評価結果の分析

一部に学術論文の成果が少ない教員もいるが、いずれも自己点検評価が高いところから判断して、十分な成果が得られ、間もなく論文の形で成果が発表される者と思われる。いずれの教員も外部評価委員会による評価においても高い評価が得られていることから、各教員による個人評価は妥当なものと判断することができる

(2) 組織運営の領域

有明海総合研究プロジェクト個人評価専門委員会において、組織運営の自己点検結果は妥当なものと判断した。組織運営においては、前年度の経験をもとに順調に運営されており、特記すべき事項はない。